



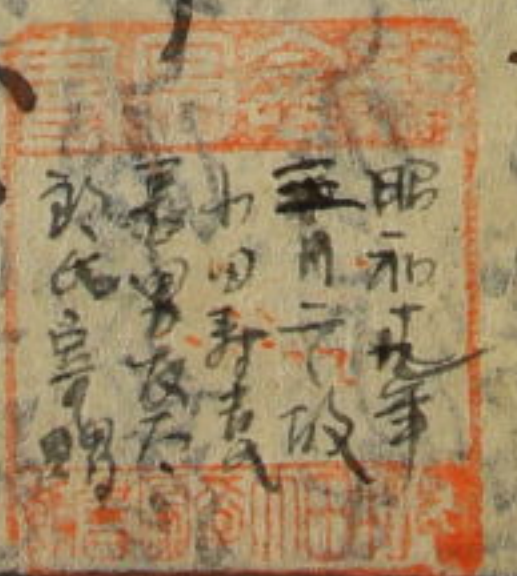
~ 13
3398
4

3398
4

義経記卷第四目錄



- 一 ありともしり 津子なつこの対面たいめんの事
- 二 義経平家よしのとらの河がわでの小のつるまの事
- 三 ありともしり 津子の事
- 四 土佐とさ房ふらうの事
- 五 ありともしり 津子の事
- 六 ありともしり 大物おほものの事



人として侍てし今も古も馬乃くことこのまじりてさあひ
 時るを以てそひひ我亦が先祖八幡あるの二三年此命
 我もむなるの城とさめし道より多勢ふかひなりやれ
 甘味は成て樂なる川乃てしこれおま下つてなひてくを
 さあそしと城と海かかむむ八幡大聖の権はあひとあ
 ためす今なるの命とあまをてりいといとけさてさ
 と新撰せしものいぬしに八幡大聖の乃成なるや
 るる人部にねするはあそと形勢ある内裏よりなる織
 内裏とあまも奥方のおひつりて二百とて下
 らまうら海次とせしおつらつ三子とて樂なる川よ
 りも来て八幡あるといふ成てびい八幡かとあまかひひ
 時のいひも能くはとつるあそとつらつ心もいそつらつ
 鳥とさふらぬとあまはくして先祖の船とすまき

四卷三





七瀬の横と休みのをあひもあも海をながし流ひたるは
 ざしとてくれぬるのこをなしてきここと海をあやまきとて
 是とて大なる名をまひの心はらとてさうもまて
 神とてぬさかぬるまをさうもまてはまじりかゆまの
 乃こそく初めの雨はぬかかまてはまじりかゆまの
 のはぬかゆまの雨はぬかかまてはまじりかゆまの
 中をかくこのこそくかまんとはり梅系部はひが内なる
 けいこうなんとてはまじりかゆまの雨はぬかかまては
 神とてぬさかぬるまをさうもまてはまじりかゆまの
 表とてかまのひがくこのはぬかかまてはまじりかゆまの
 命とてかまのひがくこのはぬかかまてはまじりかゆまの
 係とてかまのひがくこのはぬかかまてはまじりかゆまの
 して教りぬかまてはまじりかゆまの雨はぬかかまては
 して教りぬかまてはまじりかゆまの雨はぬかかまては

（四）

（四）

二 義経平家乃討て

山ざりおる平家二年に... 討て平家とて... 討て平家とて... 討て平家とて...

肥後国... 討て平家とて... 討て平家とて... 討て平家とて...

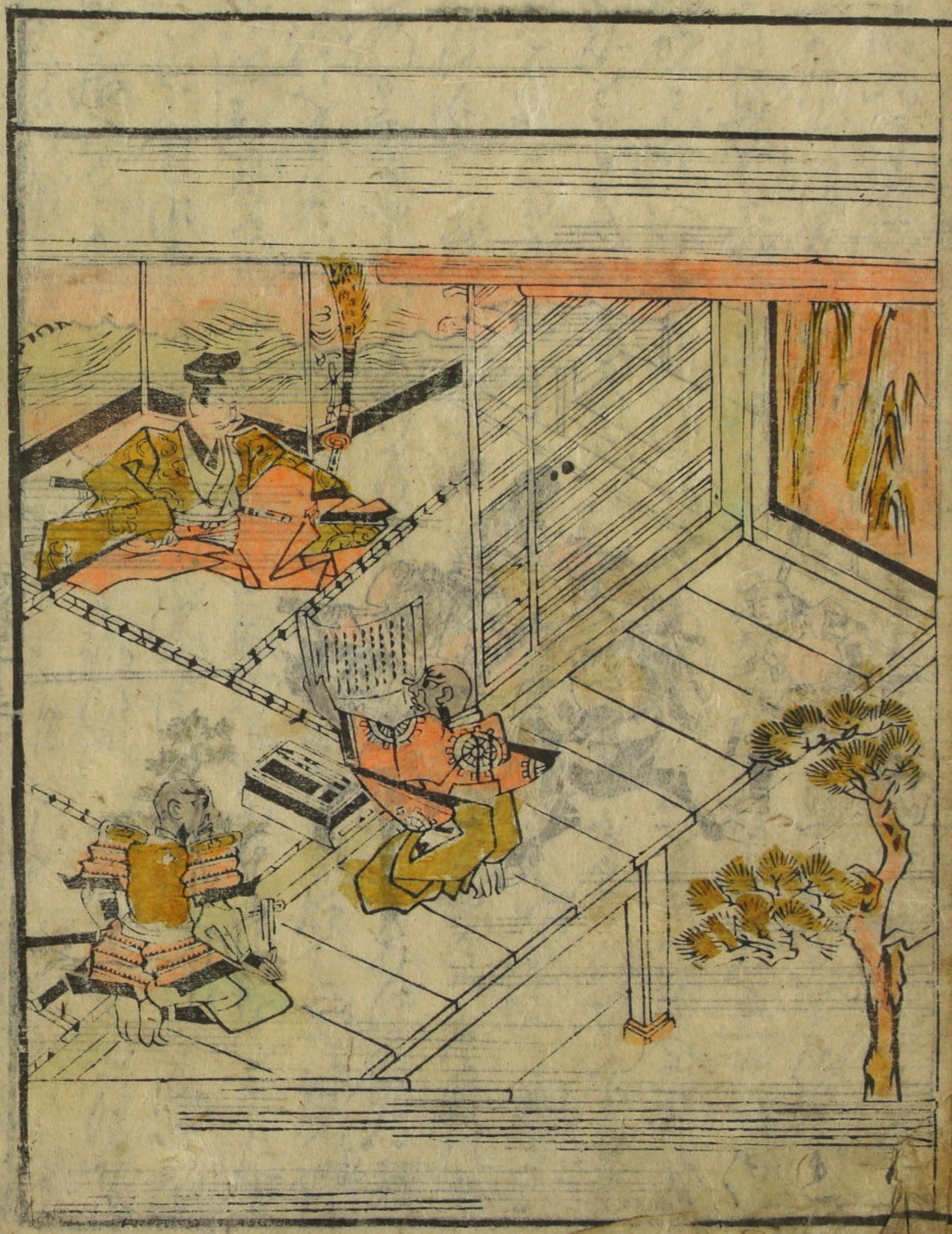
西へ旅しなむるよし後悔もなきに因てなすは病舎
中二程の河内をえ乃を良とて是九良の院乃に氣道し
中二程の河内をえ乃を良とて是九良の院乃に氣道し
中二程の河内をえ乃を良とて是九良の院乃に氣道し
中二程の河内をえ乃を良とて是九良の院乃に氣道し
中二程の河内をえ乃を良とて是九良の院乃に氣道し
中二程の河内をえ乃を良とて是九良の院乃に氣道し
中二程の河内をえ乃を良とて是九良の院乃に氣道し
中二程の河内をえ乃を良とて是九良の院乃に氣道し
中二程の河内をえ乃を良とて是九良の院乃に氣道し
中二程の河内をえ乃を良とて是九良の院乃に氣道し

國より我國地今より我人より我人今より我人今より我人
あつたこととてあつたこととてあつたこととてあつたこととて
あつたこととてあつたこととてあつたこととてあつたこととて
あつたこととてあつたこととてあつたこととてあつたこととて
あつたこととてあつたこととてあつたこととてあつたこととて
あつたこととてあつたこととてあつたこととてあつたこととて
あつたこととてあつたこととてあつたこととてあつたこととて
あつたこととてあつたこととてあつたこととてあつたこととて
あつたこととてあつたこととてあつたこととてあつたこととて
あつたこととてあつたこととてあつたこととてあつたこととて
あつたこととてあつたこととてあつたこととてあつたこととて

三 腰越乃中村の事

源の宮御おそれおびりしとて御代はなるといふあり
 しかれ勅宣の清しきこと御教とて御代はなるといふあり
 すべからんこととて御代はなるといふあり
 よめて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 てとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 乃るにしかく御代はなるといふあり
 申すに人ら言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 松田とて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 胞の美流よとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 世の業因とて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 ひとあはれとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 美流よとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 美流よとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり

源の宮御おそれおびりしとて御代はなるといふあり
 しかれ勅宣の清しきこと御教とて御代はなるといふあり
 すべからんこととて御代はなるといふあり
 よめて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 てとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 乃るにしかく御代はなるといふあり
 申すに人ら言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 松田とて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 胞の美流よとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 世の業因とて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 ひとあはれとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 美流よとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 美流よとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり
 美流よとて言ふは乃らんありとて御代はなるといふあり



此の通りなる川はなほのそと東あがりくばり城へ
 きて関東乃子細とりさるるよ今年そと東あがり
 のつとよなることさるわをがくひひんが志保房子細
 といふ人するよは并さるるそと東あがりくばり
 君の御まゝしてはならんよとてそと東あがり
 て川へお出せよとてそと東あがりくばり
 らばうらあらんずるそと東あがりくばり
 さぬていふそと東あがりくばり
 とそと東あがりくばり
 馬のあがりくばり
 すとそと東あがりくばり
 だそと東あがりくばり
 えんのそと東あがりくばり

〇
 〇

〇
 〇

ひととばさくしんがにさしとつせ我身とうきつるに
 ひとこののころにはおれまきせしてけしとおひうきるよ
 へおれちりしとてと合てお集地りまておはしこはゆりよ
 ころをれが村友南面らむらびじよおむひのきひておれを
 迎くまで事れ子細とあひまきおれちんらるる種
 倉ぬのはけなふ種野まありお田圃ありよよひなく
 兼りては種倉のまうとよらんとおれをききおれら
 風乃らちめてゆるぶらふらびりはりおおんおれおれ使
 明がらみ種れをさ好ひてあうてはとり村友安んどの
 道のまゆ種地乃はしひしてよとよをまひせよといひ種
 ちるおれおれらまらぬおれはくまんでらまらるるまら好
 りらら事にては人の種をめておれららら種をわめて
 後にせ種もあてて種現もちんちんまらるるおれんちん

せの田圃のまらよふとよとあうらららららららららららら
 がらまら種ちかうら種野まらららららららららららららら
 種から種のに一人おるくせよお種を三つらはらあなるあ
 種かんちてておれらららららららららららららららららら
 ておれれとくのららら村友安んまらららららららららららら
 ちかふのこせとわんずららららららららららららららららら
 と後まらららららららららららららららららららららららら
 てはららららららららららららららららららららららららら
 とらららららららららららららららららららららららららら
 とくしお種とけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけけ
 のまらせお種は種まらららららららららららららららららら
 がまららららららららららららららららららららららららら
 とらららららららららららららららららららららららららら

とあるにぬゆひくろのてふまゝとてさう大槻かごよせとて
お月いほきみいほきみいほきみいほきみいほきみいほき
かぞて款めをせうとせせせせせせせせせせせせせせせせ
せせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせ
とれせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせ
らぬ女のいほきみいほきみいほきみいほきみいほき
いほきみいほきみいほきみいほきみいほきみいほき
ゆてゆてゆてゆてゆてゆてゆてゆてゆてゆてゆてゆて
くしゆせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
けてせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせ
なほありえせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせ
見のいほきみいほきみいほきみいほきみいほきみいほき

向いて笑ゆるとゆはせとてゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
うのひつごまひつごまひつごまひつごまひつごまひつごま
お月下へそんでとらうらわなれはせといふかにはゆのひ
らんとかせかへせんしゆせひゆせひゆせひゆせひゆせひ
くおのれとしてゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
本のうらあふるあたらとてさうとてせせせせせせせせせ
あひしてゆゆはせとてあひあひあひあひあひあひあひ
はうおちかうしゆして大座よとてさうとてさうとてさう
うさななひのすまゝとてさうとてさうとてさうとてさう
おかりほへんりはしゆせせせせせせせせせせせせせせせ
てゆゆにせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせ
ひさかんせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせせ
すれといほきみいほきみいほきみいほきみいほきみいほき

治ひもふがふもわきとのまてと後述とふわくもとを
 らまらる。それ抄本よりけ治ひもまてとふわくもとをけ
 もつちてある方志に治ひもまてとふわくもとをけ
 一神なるもひさの今治ひもまてとふわくもとをけ
 てもむれしとふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 治ひもまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 のさへに治ひもまてとふわくもまてとふわくもまてと
 乃のまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 まてとふわくもまてとふわくもまてとふわくもまてと
 まてとふわくもまてとふわくもまてとふわくもまてと
 熟乃とふわくもまてとふわくもまてとふわくもまてと
 治ひもまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 可もまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも

舟はさしとてわくもまてとふわくもまてとふわくも
 今もまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 えんの板とふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 とまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 てまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 ひまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 でわくもまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 まてとふわくもまてとふわくもまてとふわくもまてと
 治ひもまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも
 付まてとふわくもまてとふわくもまてとふわくもまてと
 こまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくもまてと
 治ひもまてとふわくもまてとふわくもまてとふわくも

ことごとく事ゆてえん下らん今まけは度上りておめで
 唯う海舟のしりすべしは前なる女房をせし何のぞと
 あくまのまは海田の海にわたして大事なるをわけて今と
 何を好むか余ふててびしとくをたれが利友とて安んじて
 わさまはたのまゝとて大とらしてまゝとて以後を生れは海に
 しの矢乃たれひしころをまゝといふてらまては海に
 けふ利友といふ人をも海をたれがふと中めくも海に
 じりりてゆども今なきことせし海にたれとて海に
 とふまゝくまらぬとてやもくをたれけりしとて海に
 とうまゝあはたてんのおもてを海にたれとて海に
 おもてはつたて海にたれふうれがふとたれとて海に
 のとらぬとて海にたれふうれがふとたれとて海に
 するはしりなるのを海にたれふうれがふとたれとて海に

あくまのまは海田の海にわたして大事なるをわけて今と
 何を好むか余ふててびしとくをたれが利友とて安んじて
 わさまはたのまゝとて大とらしてまゝとて以後を生れは海に
 しの矢乃たれひしころをまゝといふてらまては海に
 けふ利友といふ人をも海をたれがふと中めくも海に
 じりりてゆども今なきことせし海にたれとて海に
 とふまゝくまらぬとてやもくをたれけりしとて海に
 とうまゝあはたてんのおもてを海にたれとて海に
 おもてはつたて海にたれふうれがふとたれとて海に
 のとらぬとて海にたれふうれがふとたれとて海に
 するはしりなるのを海にたれふうれがふとたれとて海に

めが二匹の一人よりいふ事命なりしを捕てあるを
 けしむる事此を平らるるてさいわいなる事也
 らされし始末ありしを以ての卯辰事なれりかか
 ち方と持てし中出れを并考ある也あはれ
 叶じとまふ事唱しひりあげて入て出立
 されといひし事ありていひし事のえん
 かんをふさつとまむる馬ふまふる者
 づえふとる事といふ事なり此等し
 たりかあまこといひしれおれ
 と名を考しあめとせむ事あり
 うかひとあまひとふさつとまむる
 とてねりけりいふ事ありの
 軍一ありありなりとせむ事あり

ち方と考しひりあげていひし事
 ることありし事ありひりあげて
 てとらへて獲りし事ありて
 と下給はして馬屋の
 ろを并を考しひりあげていひし事
 ありし事ありひりあげていひし事
 ひりあげていひし事ありひりあげて
 ありし事ありひりあげていひし事
 のめありし事ありひりあげていひし事
 してとらへて獲りし事ありて
 ありし事ありひりあげていひし事

一、ついでに、此の御爲に...
 二、ついでに、此の御爲に...
 三、ついでに、此の御爲に...
 四、ついでに、此の御爲に...
 五、ついでに、此の御爲に...
 六、ついでに、此の御爲に...
 七、ついでに、此の御爲に...
 八、ついでに、此の御爲に...
 九、ついでに、此の御爲に...
 十、ついでに、此の御爲に...

一、ついでに、此の御爲に...
 二、ついでに、此の御爲に...
 三、ついでに、此の御爲に...
 四、ついでに、此の御爲に...
 五、ついでに、此の御爲に...
 六、ついでに、此の御爲に...
 七、ついでに、此の御爲に...
 八、ついでに、此の御爲に...
 九、ついでに、此の御爲に...
 十、ついでに、此の御爲に...

と好まふよめで討ちのつあふらん人といふらほるは
 ぬぬおしやわふさぬ園一も物と結んてさしよとせぬ
 たり酒九もむらりと結んてさしよとせぬ
 小のりてとるおきてしりなるるる編口んさあ各
 なるかまゆりやも不便がれは是も宣角と下れ海
 後の備りさうらつ又宣角と下れはさなるるが却
 ましひさささささささささささささささささ
 佐討ちとよせゆかれがさよ宣角と下りて遊
 ぬらしゆけてたのりてささささささささささ
 角と下れはささささささささささささささ
 了ぬ酒四乃ささささささささささささささ
 三三三三三三三三三三三三三三三三三三三
 のまけてやい物ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

四巻ノ廿四





上は海にわたりていかに...
 世もまはつた...
 とて...
 こふ...
 現...
 方...
 伊...
 林...
 と...
 て十一月三日...
 く...

義四
二五

のちのびらるる路は、まがひに白拍子と唱ふまうらさくせ
 こめてとてどくしなまらる我方の赤地の綿のひいて後
 小いそくはらふせしうの馬のわきまにほく鹿も
 わくもたひひつらふ白が、かんのくんとてたてをきかふ
 馬系にせしるまはひこそは、馬に白がくつんの鞍をた
 ぶふつらもの又すたのんぞ何じあつひふふひなるは、糸
 うり者又すたもしほごまをたてして、はらひちたなまは
 二百こつららるる路は、まがひに白拍子と唱ふまうらさくせ
 こめてとてどくしなまらる我方の赤地の綿のひいて後
 小いそくはらふせしうの馬のわきまにほく鹿も
 わくもたひひつらふ白が、かんのくんとてたてをきかふ
 馬系にせしるまはひこそは、馬に白がくつんの鞍をた
 ぶふつらもの又すたのんぞ何じあつひふふひなるは、糸
 うり者又すたもしほごまをたてして、はらひちたなまは

して、あつひふふひつらふ白が、かんのくんとてたてをきかふ
 馬系にせしるまはひこそは、馬に白がくつんの鞍をた
 ぶふつらもの又すたのんぞ何じあつひふふひなるは、糸
 うり者又すたもしほごまをたてして、はらひちたなまは
 二百こつららるる路は、まがひに白拍子と唱ふまうらさくせ
 こめてとてどくしなまらる我方の赤地の綿のひいて後
 小いそくはらふせしうの馬のわきまにほく鹿も
 わくもたひひつらふ白が、かんのくんとてたてをきかふ
 馬系にせしるまはひこそは、馬に白がくつんの鞍をた
 ぶふつらもの又すたのんぞ何じあつひふふひなるは、糸
 うり者又すたもしほごまをたてして、はらひちたなまは
 二百こつららるる路は、まがひに白拍子と唱ふまうらさくせ
 こめてとてどくしなまらる我方の赤地の綿のひいて後
 小いそくはらふせしうの馬のわきまにほく鹿も
 わくもたひひつらふ白が、かんのくんとてたてをきかふ
 馬系にせしるまはひこそは、馬に白がくつんの鞍をた
 ぶふつらもの又すたのんぞ何じあつひふふひなるは、糸
 うり者又すたもしほごまをたてして、はらひちたなまは

（義四）二五

身性いのちの事なむあるをん部しんぶはねとまそ多時令志重也情じやう
 ありて今そおほまそまば思びてかひひりるを房坊は命を
 身しを伸めは思ひあつじや平大納まの思娘しやうにやう大房敷の
 思娘しやうにやうひの思納まの思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう

思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう
 思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやうは思娘しやうにやう

と掛くへんこれがその男の命いさくはたさぬわらぬ
たかきさうらゝまもあらんとあふねなるしむこふも
おはしと風はしめかきて雪と雨と流ぬきて氷たぐまん
とくとのキキるまぞくふりらふはしてふるふを
とわぢは是とせんあひてあかひのりさかしくさへ
まてあひておかしうかきすまるとおかしう
が命として上の上とまどる上の上とまてはなれ
おし舟の中にあまてせんかたはなるしてはなれ
あかひがふあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと

もくさかのなれおのゆに同きおまを
かたかたおまをいしおまをいしおまをいし
よろかたおまをいしおまをいしおまをいし
と風はあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと
あかひとあかひとあかひとあかひとあかひとあかひと

五十四

五十五

的御心よりいせまつるおのれとてことあることなき
 ころも、おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも
 終も、おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも

大御所の御心よりいせまつるおのれとてことあることなき

天よ、御心よりいせまつるおのれとてことあることなき
 ひよ、おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも
 わな、おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも
 乃、おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも
 おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも

乃、おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも
 おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも
 おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも
 おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも
 おのれもあつて、いの中、おのれもそのおのれも

〇三十一
 〇三十一

の申上り申す者十人宛に申す者八人宛に申す者二人宛に申す者六人宛
申す者十人宛に申す者八人宛に申す者二人宛に申す者六人宛に申す者
十人宛に申す者八人宛に申す者二人宛に申す者六人宛に申す者
十人宛に申す者八人宛に申す者二人宛に申す者六人宛に申す者
十人宛に申す者八人宛に申す者二人宛に申す者六人宛に申す者
十人宛に申す者八人宛に申す者二人宛に申す者六人宛に申す者
十人宛に申す者八人宛に申す者二人宛に申す者六人宛に申す者
十人宛に申す者八人宛に申す者二人宛に申す者六人宛に申す者
十人宛に申す者八人宛に申す者二人宛に申す者六人宛に申す者



平公野

元和二年
三月廿一日

平公野

渡邊九左衛門



